

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

1	学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	
(1)	学生の確保の見通し	2
①	定員充足の見込み	2
②	定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	4
③	学生納付金の設定の考え方	6
(2)	学生の確保に向けた具体的な取組状況	6
2	人材需要の動向等社会の要請	
(1)	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)	7
(2)	上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	7
①	社会的、地域的な人材需要の動向	7
②	卒業後の進路に関する調査結果の概要	10

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

①定員充足の見込み

大分大学（以下、「本学」という。）理工学部（以下、「本学部」という。）では、これからの科学技術開発を担う人材を育成するために、理学・工学分野において、自ら課題を探究する高い学習意欲と柔軟な思考力、国際基準を満たす専門知識を備え、総合的な視点から分野を超えて連携して科学技術の発展に貢献でき、豊かな人間性と高い倫理観を併せ持つ人材を養成する。

これからの社会で求められるイノベーティブな科学技術の革新あるいは新たな価値や産業の創出を支える人材の養成を行うために、平成29年度の工学部から理工学部への改組の方向性でもあった理学と工学の融合をさらに推し進め、「理工学科」1学科体制とする。その中に下表に示す9つの教育プログラムを置き、理工学分野での基盤となる技術分野での専門能力を身につけると同時に、これらのプログラムの有機的な連携により、総合的・俯瞰的視点から科学技術の開発に寄与し、社会の広い分野で活躍しうる人材を養成する。

本学部の入学定員は、医学部先進医療科学科の設置の他、令和5年度から行われる本学の全学的な改組計画に連動し、現在の定員385名から30名を減じ355名とする（3年次編入学生定員10名を除く）。収容定員は1440名である（3年次編入学生の収容定員20名を含む）。

改組後の理工学科における各教育プログラムにおいては、明示的な定員は設けないが、教室の許容スペース、学生実験を行う機器数等を鑑みて教育の質を維持する観点から、募集の目安を次のように設定する。

教育プログラム名	募集の目安
数理科学プログラム	13名
知能情報システムプログラム	60名
物理学連携プログラム	10名
電気エネルギー・電子工学プログラム	65名
機械工学プログラム	67名
知能機械システムプログラム	28名
生命・物質化学プログラム	52名
地域環境科学プログラム	15名
建築学プログラム	45名
(合計)	355名

これらの募集の目安の設定にあたっては、入学定員が30名減員となることをふまえて、既存のコースを継承するプログラムについては、募集の目安においてコースの定員の10%程度減員することを基本とし、新たに設置する物理学連携プログラムと地域環境科学プログラムでの人材養成のための募集の目安数を確保しつつ、社会的ニーズに対応し、丁寧な学生指導を可能にするなど、教育効果が最適となるよう調整を行っている。

知能情報システムプログラムについては、最近の情報化技術にかかる社会的ニーズとデータサイエンスを基盤としたDX推進にかかる人材養成の観点から従前のコース定員の65名から10%減より若干多い60名を募集の目安としている。また、生命・物質化学プログラムにおいては、近年のイノベティブな技術革新の基盤、とりわけ、ものづくりの基盤としての、物質科学にかかる社会的要請、さらに地域の食品加工分野、農林水産分野における貢献への期待をふまえて従前の（応用化学）コース定員の55名から10%減より若干多く52名を募集の目安の設定とした。一方で、電気エネルギー・電子工学プログラムならびに機械工学プログラムについては、これまでのコース定員では75名と最も多くの定員を設定していたが、カリキュラムを精選し、より丁寧な学生指導を可能にするよう10%減よりも若干絞った募集の目安の設定となっている。また、知能機械システムプログラムは現在の福祉メカトロニクスコース（定員35名）の教育プログラムを継承することとなるが、このコースで行われる教育プログラムでの専門分野の基礎は、令和5年4月に医学部に新設予定の先進医療科学科臨床医工学コースでの基礎教育と共通する部分も多く、いくつかの科目を共有する計画もあることから、教室の収容人員、実験等での教育的リソースの観点、また医学部への1名の教員移動の状況も踏まえて、10%減よりも若干絞った募集の目安の28名に設定することとした。数理科学プログラム、建築学プログラムについては、ほぼ10%減の設定としている。新たに設置する物理学連携プログラムについては、他の工学分野と密接に連携して人材養成を行っていくことをふまえて、プログラム間連携教育の規模の観点から募集の目安の設定を10名とした。同様に、新設する地域環境科学プログラムにおいては、マンツーマンでの指導が必要なセミナーやフィールドワーク・現地視察などでのグループとしての学修効果や移動の際の機動性の観点を踏まえたうえで、地域からの期待に応えるために募集の目安を15名に設定することとした。

過去5年間の入学志願状況等（志願者数、受験者数、合格者数、辞退者、入学者数、歩留率、定員超過率）は【資料1 理工学部入学志願状況（平成30年～令和4年）】に記載の通りである。学部全体としても志願倍率は2.9倍から4.7倍を保ち、各コースの志願状況においても2.1倍から6.2倍の志願者がおり、十分な志願者を確保できているため、学部の定員は充足している。各コースでもほぼ定員を確保できているが、電気電子コース、福祉メカトロニクスコース、自然科学コースで、若干定員を下回る年度があるものの定常的なものではなく、その場合であっても、令和4年度の自然科学コースの8割を除いて、充足率は9割を超えている。これらの過去の志願状況から、（自然科学コース以外の）現在のコースによる教育内容を継承する7つの教育プログラムについては、十分な志願希望者を確保できるものとする。自然科学コースについては、理科系の分野の

集合体という印象があったが、今回の改組により、その人材養成の方向を明確化することとし、自然科学コースとしての募集はとりやめ、物理学連携プログラムと地域環境科学プログラムを新たに設けることとしているので、志願者が自らの進路を選択しやすくなるものと考えている。

本学部では理工学科として 355 名の入学定員を定めるものの、各教育プログラムで定員を定めるものではないが、上述の募集の目安をもとに学生募集を行うこととしている。ここで述べた過去の入学志願状況からの検討の結果、改組後の理工学科での定員の充足については問題なく、各教育プログラムの募集の目安についても充足が可能であると判断する。

さらに、志願者確保にかかる客観的なニーズを把握するために、次のアンケート調査を行ったが、この調査結果からも、学部学科定員ならびに各教育プログラムの募集の目安について充足できる見込みは十分である。

②定員充足の根拠となる客観的データの概要

受験生からのニーズを把握するため、第三者機関である「株式会社進研アド」への委託による「大分大学「理工学部 理工学科」（仮称）改組に関するニーズ調査」を実施した。

（【資料2 大分大学「理工学部理工学科」（仮称）改組に関するニーズ調査 結果報告書【高校生対象調査】】）

調査対象や期間は以下のとおりである。

事項	内容
調査対象	大分大学の主な学生募集エリアである岡山県，広島県，山口県，愛媛県，福岡県，佐賀県，長崎県，熊本県，大分県，宮崎県の高 等学校（45校を抽出）の高校3年生（令和4年度時点）
調査期間	令和4年5月13日から令和4年5月27日まで
調査方法	事前に本学から各対象校へ調査への協力を依頼し，了解を得た後， 第三者機関からアンケート調査用紙を送付し，理工学部改組の概 要（【資料3 大分大学「理工学部 理工学科」（仮称）改組に関する ニーズ調査 リーフレット】）を提示した上で，高等学校内で ホームルーム等を利用して，高等学校教員により配付，回収を行 った。
調査結果の回 収状況	対象：45校（配布数6,304） 回答：42校（4,639人） 回収率：73.6%

調査結果によると、回答が得られた4,639人のうち学問系統として理工学部の学問内容と関連する、「工学」は27.7%、「情報科学，データサイエンス学」は19.3%、「環境

科学, 建築学」は13.6%, 「数学」は15.9%, 「物理学」は12.4%, 「化学, 生物学」17.5%であった。

人材養成の特色としての「A. 課題の確認・同定(理学的アプローチ)と課題解決(工学的アプローチ)の両学問体系から, 専門性の高いスペシャリストを養成する。」の魅力度(「とても魅力を感じる」及び「ある程度魅力を感じる」を合わせた割合)は82.8%, 「B. 共通基盤としてのデータサイエンス教育を含む基礎教育に加えて, 他分野科目の履修, 他組織との連携など, 分野横断的な教育を実施する。」の魅力度は82.2%であった。人材養成の2つの観点は共に82%以上の高校生から支持されている。

各教育プログラムの特色(学びの内容, 養成する人材像)に対する魅力度は67.3%~77.9%であり, 魅力度が高い上位2プログラムは, 「D.<知能情報システムプログラム> 情報科学を基礎とし, 現代社会の情報化を推進。新たな知的ITシステムのデザイン・構築に貢献できる人材を養成する。」の77.9%, 及び「G.<機械工学プログラム> 最先端の機械工学の知識を基礎として, 脱炭素社会実現のために高効率で環境負荷の低い機器・機械の設計・開発ができる人材を養成する。」の74.1%であった。

回答が得られた4,639人のうち, 本学部を「受験したいと思う」と回答した人は824人(17.8%)であった。この受験意向者824人のうち, 入学意向は707人(85.8%)であり, 入学定員数に対する入学意向者数の割合は1.99倍であった。各教育プログラムへの入学意向を下の表に示す。入学意向については, 選抜方法の大半を占める一般選抜で, 2年次以降に正規配属となるプログラムへの入学時仮配属希望調査を基にした一括入試を行う観点から, 第1希望, 第2希望までの希望者を入学意向があるものとみなすこととした。全プログラムともに募集の目安を上回る入学意向者数が認められ, 特に, 新設の2プログラムについては, 物理学連携プログラムが8.30倍, 地域環境科学プログラムが9.47倍と, 募集の目安を大きく超えた入学意向を得ている。

以上により, 本学部においては, 十分な志願者を確保し, 定員を充足できるものと判断する。

<改組後の理工学部各教育プログラムへの入学意向>

学部学科 名称	教育プログラム名称	募集 の 目安 (人)	教育プログラム入学意向		
			入学意 向者数 (人)	対 入学意 向者計 (%)	対 募集の 目安 (倍率)
理工学部 理工学科	数理科学プログラム	13	107	15.1%	8.23
	知能情報システムプログラム	60	237	33.5%	3.95
	物理学連携プログラム	10	83	11.7%	8.30
	電気エネルギー・電子工学プログラム	65	123	17.4%	1.89
	機械工学プログラム	67	196	27.7%	2.92
	知能機械システムプログラム	28	151	21.4%	5.39

	生命・物質化学プログラム	52	123	17.4%	2.37
	地域環境科学プログラム	15	142	20.1%	9.47
	建築学プログラム	45	165	23.3%	3.67
	計	355	1327		

③学生納付金の設定の考え方

他の学部（教育学部，経済学部，医学部，福祉健康科学部）と同様に，「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」に定める標準額と同額に設定する。

（２）学生の確保に向けた具体的な取組状況

学生確保につなげるため，以下の取組を推進している。

①オープンキャンパス

本学では，毎年8月初旬頃にオープンキャンパスを開催しており，新型コロナウイルス感染症の影響があった令和2年度，3年度より前は，全学で毎年4,000人程度が参加していた。令和4年度も7月31日に開催予定である。参加した高校生に，カリキュラムや入試にかかる説明，実験室等の見学，模擬授業，キャンパスツアーなどを実施しており，いずれも参加者から好評を得ているため，学生確保のためのPRには絶好の機会であり，かなりの効果が期待できる。

②入試懇談会

本学では，例年7月（本年度は8月実施予定）に，多数の受験生を本学に送り出している高等学校や予備校の進路指導担当教諭等を対象とした入試懇談会を開催しており，本学部の改組について，その特色や狙いを説明することによって，新たな本学部の魅力をPRすることができ，学生確保の効果が期待できる。

③高校訪問

令和3年11月に，県内の高等学校を訪問し，ニーズ調査と併せて，本学部の紹介を行った。今後は，大分県内や九州地区に限らず，全国の高等学校（本学に志願実績のある高等学校等）を訪問し，直接，高校生や教諭に対して，新たな理工学部の人材養成の方向性や特色のある教育等について説明する計画である。このことにより，本学部の魅力をPRすることができ，学生確保の効果が期待できる。

④説明会の開催

令和4年5月に認可申請中であることを前提とした「令和5年度大分大学の改組に係る入試説明会」を実施した。対象は，大分県や近隣の県の高等学校の進路指導担当教員や予備校の担当者とし，改組の概要，入試実施方法を説明し，質疑応答を行った。また

8月に実施予定の全学部を対象とした入試懇談会でも、改組の方向性や入試の方法について説明する予定である。これらの説明会によって、高校訪問と同様、本学部の魅力をPRすることができ、学生確保の効果が期待できる。また、大分市をはじめ、九州内各地で開催される受験産業主催の進学説明会にも参加して、関心のある高校生に対して、直接、本学部の魅力や入試の方法を説明する機会を持つとともに、九州地区国立大学進学説明会においても説明することにより、学生確保に努めることとしている。

⑤リーフレット、広報誌等各種媒体による広報

令和4年度初めに、本学部を紹介するリーフレットを作成し、県内外の公私立高等学校へ配布した。更にオープンキャンパスや説明会等でも配布する予定である。また、本学が年2回発行し、県内の高校をはじめ県外の高校や関係機関等へ広く配布している広報誌「BUNDAI. OITA」においても、本学部PRのための記事を掲載する計画である。その他にも、新聞や受験雑誌への掲載や、ビジネス誌の大学関連企画に併せて掲載することにより、宣伝効果の増大が期待できる。

⑥ウェブサイトによる広報

本学のホームページに、本学部の設置構想に関するページを設け、理念や概要等について紹介する。本学ホームページは1日約5,000ページビューがあり、ホームページでの広報は、かなりの効果が期待できる。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学部では、これからの科学技術開発を担う人材を育成するために、理学・工学分野において、自ら課題を探究する高い学習意欲と柔軟な思考力、国際基準を満たす専門知識を備え、総合的な視点から分野を超えて連携して科学技術の発展に貢献でき、豊かな人間性と高い倫理観を併せ持つ人材を養成する。

これからの社会で求められるニーズに応え地球規模の複合的課題を解決し、イノベティブな科学技術の革新あるいは新たな価値や産業の創出を支える人材の養成を行うために、平成29年度の工学部から理工学部への改組の方向性でもあった理学と工学の融合をさらに推し進め、「理工学科」1学科体制とし、理工学分野の専門性を担保するために9つの教育プログラムを設ける。同時に従来のコース制度を廃止し、プログラム間で柔軟な教育連携をとる体制に移行する。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

①社会的、地域的な人材需要の動向

日本と日本を取り巻く世界の社会環境の変化そして科学技術の変容の度合は日々加速している状況にある。第5期科学技術基本計画（平成28年1月）では、21世紀の科学技術の大きな進展・情報通信技術（ICT）の急激な進化に伴い、グローバルに、情報・人・組織・物流・金融など「もの」が瞬時に結合、相互に影響を及ぼし合う状況が生まれ、既存の産業構造や技術分野の枠を越えた新たな付加価値（イノベーション）の創出が望まれるとしている。当時の喫緊の課題として、国内ではエネルギー、資源、食料等の制約、少子高齢化、地域経済社会の疲弊、大規模地震や火山噴火など自然災害のリスク、安全保障環境の変化などへの対応が、世界的には、人口の増加、食料や水資源等の不足、感染症やテロの脅威、格差の拡大、気候変動、生物多様性減少など環境問題への対応が上げられ、国内外の諸課題を解決していくためには、科学技術イノベーションを強力に推進していくことが必要であると述べられていた。さらに、令和3年3月に策定された第6期科学技術・イノベーション基本計画では、気候変動がより深刻化しているとの強い認識が表明され、国内においては、少子高齢化、過疎化の進展などの従来からの課題に加えて、激甚化・深刻化する自然災害、科学技術の国際競争力低下などが新たな社会的課題としてとらえられた。こうした環境問題を含む諸課題を解決するためには、今世紀後半での世界の脱炭素社会の実現に向け、現在の社会構造とは抜本的に異なる社会像を目指して、社会変革と非連続なイノベーションが不可欠であると述べている。また、令和元年末から新型コロナウイルス感染症が世界に拡大する中で、従来の常識とは異なる形の取組が開始するなどの状況についても言及している。

社会が直面する困難な課題に対して、新たな技術革新や価値の創造をもってこれに対応する、進取の気性に富んだ人材の育成が必要である。この観点から平成24年版厚生労働白書では、イノベーション人材育成の必要性に言及し、平成29年6月の「大学における工学系教育の在り方について（中間まとめ）」においても「新たな産業の創造・イノベーションの創出を目指していく」ことを求めている。

このように、科学分野でのイノベティブな革新にかかる期待は以前にも増してより一層強いものになってきている。このための理学と工学の連携の重要性は、どの工学分野においても、理学的な考え方を意識した人材育成をさらに推し進めなければならない状況にある。加えて、情報・データサイエンス等を推進する人材にかかる社会的要請は、分野を超えて強いものとなってきており、学部全体が一体となって取り組むべきものである。

今回の改組により、本学部全体を1つの教育組織、理工学科とし、その中にプログラム間連携教育を前提とした専門人材養成のための教育プログラムを置くことによって、産業界の求める、社会環境の変化に対応したイノベティブな科学技術の開発に資する人材養成に柔軟かつ機動的に取り組む体制を整えることとする。

大分県では、平成25年に、以降10年間の科学技術振興の方向を示すものとして「第2期大分県科学技術振興指針」を策定し、重点施策として、独創性と活力ある産業の創

出、安心・安全な生活・環境の創出、科学技術を支える基盤づくり、科学技術を担う人づくりを掲げ、地域産業（製造業・農林水産業・情報サービス業等）での重点課題と科学技術振興について取りまとめ、その中では、再生可能エネルギーの導入、ICTの活用促進と環境整備、農業の6次産業化、東九州メディカルバレーの推進、防災・減災などに取り組むこととしている（【資料4 第2期大分県科学技術振興指針（第4章抜粋）】）。また、国内における Society 5.0 の動きと連動する形で、産業振興にかかる行動指針として、平成29年には大分県版第4次産業革命「OITA 4.0」を作成して、ドローン産業の振興、医療機器関連産業の振興、エネルギー産業の振興、次世代電磁力応用技術の活用などの取組を推進することとしている（【資料5 大分県版第4次産業革命への挑戦「OITA4.0」】）。今後、さらに、DX推進にかかる人材養成や令和4年に予定されている宇宙港の開港に伴う新たな産業の育成、持続可能な社会環境の構築とカーボンニュートラルの実現のためのエネルギー施策など、地域の活力や改革を創出する産業の振興の他、今後想定される九州地域における自然災害への対応のために、強靱な県土づくりと危機管理体制の充実など、地域の安全と安心を守るための施策や取組についても推進している（令和4年度県政推進指針（令和3年10月）、【資料6 令和4年度県政推進指針のポイント】）。本学部は、地域の高等教育機関において理工系分野の発展を担う組織として、これらの地域課題について、人材養成を含めて、科学技術の観点から解決に寄与することが求められている。

平成29年度の工学部から理工学部への改組の際には、「創生工学科」のもとに、機械コース、電気電子コース、福祉メカトロニクスコース、建築学コースの4コース、「共創理工学科」のもとに、数理科学コース、知能情報システムコース、自然科学コース、応用化学コースの4コースの計8コースを設置した。このうち、数理科学コース、自然科学コースは理学的な内容を学ぶ教育課程として地域からの強い要請もあり、数学・統計科学や、生命科学、物質科学、地球科学等の自然科学を基礎として、情報処理や環境科学・食品工学などの工学分野への展開も視野に入れた理工学教育組織として新たに設置されたものである。残りの6コースについては、前身となる工学部での学科での教育体系を基礎に、それぞれ理学的な教育内容も取り入れることにより、コースとして再編した。

設置した8つのコースでは、科学技術の開発において基盤となる専門分野での人材育成を行っている。とりわけ工学部の学科を継承した6コースについては、これまでの実績もあり、産業界からの期待も高い状況にあり、地域企業からも引き続きこれらの分野における人材の養成を行うことが要請されている。新設した、数理科学コース、自然科学コースについても、理工学的な教育体制の観点から高校現場、産業界からの期待も高い状況を維持している。

一方で、地域における防災意識の高まり、あるいは持続可能な社会の構築に関する必要性から、環境科学や土木・建築分野などを基礎として、人と環境との向き合い方にかかる教育体制の設置を、地域の地（知）の拠点としての本学部に期待する声が地域自治

体、企業、企業団体、高校現場から寄せられている（【資料7 令和3年度(2021年度)大分大学と大分県内の高等学校との連携会議（書面開催）（抜粋：承合事項（6））】）。

さらに、イノベーティブな科学技術の開発に対応するため、理学と工学の密接な連携が求められる中、その基盤となる理学的分野としての物理学や環境科学が自然科学コースとして纏められていたために、このコース自身としては理学部の縮約版としての印象を与え、人材養成の方向性が分かりにくいとの意見も寄せられていた。

このため、自然科学コースの代わりに、新たに物理学と環境科学に関する教育プログラムをそれぞれ設置し、工学系の機械工学、電気電子、メカトロニクスに関係する理学系の分野として物理学分野を位置づけ、建築学プログラムに関係する理学系の分野として物理学分野と環境科学分野を位置づけることとする。

今回、新たに設置する物理学連携プログラムは、理学的な現象解明と理解としての物理学の基礎的な学びと同時に、基本原理や法則の工学応用にかかる展開について理解を深めることを目的としている。このことから、地域の企業との意見交換においては、工学系分野の専門知識の基礎としての物理学分野の知識は、複数の分野の参画のもとに展開されることになる科学技術革新では共通の基盤となるので、多様な展開の可能性につながることから、同プログラムでの人材養成に期待する意見が寄せられた。

地域環境科学プログラムでは、単に、生物・生態系や地学・気象学にかかる理学的な環境理解にとどまらず、その理解に基づいて、人の暮らしや環境にどう関与するべきかという観点から、環境アセスメント・土木・防災の観点に関わる教育・研究を行うことによって、地域からの強い期待に応えることとする。

残る7コースで実施されてきた専門分野については、それぞれ産業を支える基盤要素としての専門分野教育が行われており、これまでの実績、社会からの期待の観点から、前回の改組以降の社会の動向をふまえて、専門教育プログラムとして継承するものとする。

②卒業後の進路に関する調査結果の概要

卒業後の進路に関して、理工学部改組構想に基づき、卒業生の主な就職先と考えられる企業からのニーズを把握するため、第三者機関である「株式会社進研アド」への委託による「大分大学「理工学部 理工学科」（仮称）改組に関するニーズ調査」を実施した。

（【資料8 大分大学「理工学部 理工学科」（仮称）改組に関するニーズ調査 結果報告書【企業対象調査】】）

調査対象や期間は以下のとおりである。

事項	内容
調査対象	大分大学卒業生の就職先として想定される全国の企業3,045社における人事採用担当者

調査期間	令和4年5月13日から令和4年5月27日まで
調査方法	調査対象とした企業へ、第三者機関からの郵送による調査票ならびに理工学部改組の概要（【資料3】）の送付及び調査票の回収
調査結果の回収状況	対象：3,045社 回答：629社 回収率：20.7%
回答企業 (本社所在地)	大分県(35.8%)，東京都(17.5%)，福岡県(14.5%)，大阪府(3.8%)，愛知県(3.5%)他【北海道から鹿児島まで全国に分布】
回答企業 (業種)	建設業(33.4%)，製造業(22.4%)，卸売・小売業(9.5%)，情報通信業(9.1%)，サービス業(6.8%)他 【産業における科学技術の応用・展開が多様化していることも考慮に入れて，金融・保険業(3.0%)や不動産業(1.7%)等の業種も含めた】

回答が得られた629社のうち、本学部の人材養成の特色としての「A. 課題の確認・同定(理学的アプローチ)と課題解決(工学的アプローチ)の両学問体系から、専門性の高いスペシャリストを養成する。」の魅力度(「とても魅力を感じる」及び「ある程度魅力を感じる」を合わせた割合)は91.4%、「B. 共通基盤としてのデータサイエンス教育を含む基礎教育に加えて、他分野科目の履修、他組織との連携など、分野横断的な教育を実施する。」の魅力度は90.5%であった。本改組における人材養成における2つの観点は共に90%以上の企業から受け入れられている。

教育プログラムごとの特色に関する魅力度については、数理科学プログラムで83.1%、知能情報システムプログラムで88.2%、物理学連携プログラムで78.4%、電気エネルギー・電子工学プログラムで82.4%、機械工学プログラムで84.9%、知能機械システムプログラムで83.3%、生命・物質化学プログラムで73.3%、地域環境科学プログラムで78.7%、建築学プログラムで77.7%といずれも70%を超え、新たな理工学部で養成する人材像に対する高い社会からの期待がうかがえる。

回答が得られた629社における、本学部卒業生への採用意向及び採用想定人数は次の表のとおりである。

<理工学卒業生への採用意向及び採用想定人数(回答のあった629社中)>

学部学科名称	プログラム名称	採用意向		採用 想定 人数 (/年)
		企業 (数)	割合※ (%)	
理工学部 理工学科	数理科学プログラム	380	60.4%	504
	知能情報システムプログラム	434	69.0%	631
	物理学連携プログラム	354	56.3%	484
	電気エネルギー・電子工学プログラム	420	66.8%	679

	機械工学プログラム	452	71.9%	761
	知能機械システムプログラム	415	66.0%	662
	生命・物質化学プログラム	328	52.1%	488
	地域環境科学プログラム	406	64.5%	583
	建築学プログラム	422	67.1%	678

※採用意向での割合は採用意向の回答のあった629社中の各プログラム採用意向の回答のあった企業の割合。

各教育プログラムの募集の目安に対する採用想定人数の割合は9.38倍～48.40倍となっており、高い。特に、理工学部教育施設環境や学生の志願動向をふまえて、募集の目安を抑えた、数理科学プログラム（13名）、物理学連携プログラム（10名）、地域環境科学プログラム（15名）の割合はそれぞれ、38.77倍、48.40倍、38.87倍と非常に高い。それ以外の6プログラムについても、9.38倍～23.64倍（平均14.40倍）と各プログラムで想定している卒業予定学生数に対して十分な採用予定数となっている。このことから、理工学部全プログラムについて卒業生に対する採用意向が十分に高いことが、調査結果からうかがえる。

また、回答企業の本社所在地や業種の状況について、大分県に本社を置く企業や建設業界からの関心の高さは、今回の改組の方向性が地域や社会の人材需要の動向に合致したものであることを反映したものと考えられる。

以上、社会的、地域的な人材需要等の動向と卒業後の進路に関する調査結果を総合的に見て、改組後の理工学部における卒業後の進路は安定的に確保できると判断される。

大分大学工学部理工学科

学生の確保の見通し等を記載した書類

別添資料 目次

資料 1	工学部入学志願状況(平成 30 年～令和 4 年)	2
資料 2	大分大学「工学部理工学科」(仮称)改組に関するニーズ調査 結果報告書【高校生対象調査】	4
資料 3	大分大学「工学部理工学科」(仮称)改組に関するニーズ調査 リーフレット	31
資料 4	第 2 期大分県科学技術振興指針(第 4 章抜粋)	33
資料 5	大分県版第 4 次産業革命への挑戦 ⁰ OITA4.0 ₀	56
資料 6	令和 4 年度県政推進指針のポイント	64
資料 7	令和 3 年度(2021 年度)大分大学と大分県内の高等学校との連携会議(書面開催)(抜粋:承合事項(6))	66
資料 8	大分大学「工学部理工学科」(仮称)改組に関するニーズ調査 結果報告書【企業対象調査】	69

理工学部入学志願状況(平成30年～令和4年)

創生工学科 機械コース

年度	入学定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	辞退者数 E	入学者数 F	歩留率 F/D	定員超過率 F/A
令和4年度	75	305	233	84	6	78	0.92	1.04
令和3年度	75	185	138	82	6	76	0.92	1.01
令和2年度	75	237	169	81	4	77	0.95	1.02
平成31年度	75	282	193	87	6	81	0.93	1.08
平成30年度	75	188	133	85	5	80	0.94	1.06

創生工学科 電気電子コース

年度	入学定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	辞退者数 E	入学者数 F	歩留率 F/D	定員超過率 F/A
令和4年度	75	317	253	79	5	74	0.93	0.98
令和3年度	75	182	145	78	4	74	0.94	0.98
令和2年度	75	205	167	78	7	71	0.91	0.94
平成31年度	75	279	215	82	3	79	0.96	1.05
平成30年度	75	159	117	84	7	77	0.91	1.02

創生工学科 福祉メカトロニクスコース

年度	入学定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	辞退者数 E	入学者数 F	歩留率 F/D	定員超過率 F/A
令和4年度	35	125	85	38	6	32	0.84	0.91
令和3年度	35	123	103	40	2	38	0.95	1.08
令和2年度	35	146	121	37	2	35	0.94	1.00
平成31年度	35	174	108	41	5	36	0.87	1.02
平成30年度	35	107	75	42	5	37	0.88	1.05

創生工学科 建築学コース

年度	入学定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	辞退者数 E	入学者数 F	歩留率 F/D	定員超過率 F/A
令和4年度	50	312	217	54	2	52	0.96	1.04
令和3年度	50	163	113	54	4	50	0.92	1.00
令和2年度	50	245	184	58	6	52	0.89	1.04
平成31年度	50	328	226	58	2	56	0.96	1.12
平成30年度	50	177	112	58	3	55	0.94	1.10

共創理工学科 数理科学コース

年度	入学定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	辞退者数 E	入学者数 F	歩留率 F/D	定員超過率 F/A
令和4年度	15	47	46	17	1	16	0.94	1.06
令和3年度	15	42	38	17	2	15	0.88	1.00
令和2年度	15	64	56	18	3	15	0.83	1.00
平成31年度	15	63	45	19	2	17	0.89	1.13
平成30年度	15	58	42	19	2	17	0.89	1.13

共創理工学科 知能情報システムコース

年度	入学定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	辞退者数 E	入学者数 F	歩留率 F/D	定員超過率 F/A
令和4年度	65	318	244	72	5	67	0.93	1.03
令和3年度	65	211	169	69	1	68	0.98	1.04
令和2年度	65	280	219	71	5	66	0.92	1.01
平成31年度	65	330	259	71	5	66	0.92	1.01
平成30年度	65	213	158	72	3	69	0.95	1.06

理工学部入学志願状況(平成30年～令和4年)

共創理工学科 自然科学コース

年度	入学定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	辞退者数 E	入学者数 F	歩留率 F/D	定員超過率 F/A
令和4年度	15	72	46	18	6	12	0.66	0.80
令和3年度	15	52	37	18	2	16	0.88	1.06
令和2年度	15	61	50	18	2	16	0.88	1.06
平成31年度	15	67	48	22	8	14	0.63	0.93
平成30年度	15	45	34	17	2	15	0.88	1.00

共創理工学科 応用化学コース

年度	入学定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	辞退者数 E	入学者数 F	歩留率 F/D	定員超過率 F/A
令和4年度	55	264	170	68	9	59	0.86	1.07
令和3年度	55	177	115	65	10	55	0.84	1.00
令和2年度	55	287	207	64	6	58	0.90	1.05
平成31年度	55	287	187	63	6	57	0.90	1.03
平成30年度	55	200	143	64	8	56	0.87	1.01

理工学部 計

年度	入学定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	辞退者数 E	入学者数 F	歩留率 F/D	定員超過率 F/A
令和4年度	385	1760	1294	430	40	390	0.90	1.01
令和3年度	385	1135	858	423	31	392	0.92	1.01
令和2年度	385	1525	1173	425	35	390	0.91	1.01
平成31年度	385	1810	1281	443	37	406	0.91	1.05
平成30年度	385	1147	814	441	35	406	0.92	1.05

大分大学
「理工学部 理工学科」(仮称)
改組に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】

令和4年7月
株式会社 進研アド

－学生確保(資料)－4－

高校生対象 調査概要

1. 調査目的

2023年4月に予定している大分大学「理工学部 理工学科」改組構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校3年生
調査エリア		岡山県、広島県、山口県、愛媛県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県
調査方法		高校留置き調査
調査対象数	依頼数 (依頼校数)	6,304名(45校)
	有効回収数 (回収校数)	4,639名(42校) 有効回収率:73.6%
調査時期		2022年5月13日(金)～2022年5月27日(金)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

高校生対象調査
<ul style="list-style-type: none">・性別・高校種別・高校所在地・所属クラス・高校卒業後の希望進路・興味のある学問系統・大分大学「理工学部 理工学科」の特色に対する魅力度・大分大学「理工学部 理工学科」への受験意向・大分大学「理工学部 理工学科」への入学意向・大分大学「理工学部 理工学科」の学びたいプログラム

高校生対象 調査結果まとめ



高校生対象 調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、大分大学「理工学部 理工学科」に対する需要を確認するための調査として設計。大分大学の主な学生募集エリアである岡山県、広島県、山口県、愛媛県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県に所在する高校の高校3年生に調査を実施し、4,639名から回答を得た。

- 回答者の性別は、「男性」が57.7%、「女性」が41.8%である。
- 回答者の在籍高校種別は「公立」が97.3%、「私立」が2.7%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、大分大学の所在地である「大分県」が35.8%で最も多い。次いで「福岡県」が16.3%、「宮崎県」が9.5%と続く。
- 回答者の所属クラスは「理系クラス(理系コース)」が91.8%を占める。「文系クラス」は3.4%。

高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「国公立大学に進学」の割合が88.9%で最も高い。次いで「私立大学に進学」が19.4%、「専門学校・専修学校に進学」が6.7%と続く。国公立大学への進学志望者が多いことから、大分大学がターゲットとする対象に調査を実施出来ていると考えられる。
- 回答者の興味のある学問系統を複数回答で聴取したところ、「理工学部 理工学科」の学びと関連する「工学」が27.7%で最も高い。次いで「看護学、保健学」が21.3%、「情報科学、データサイエンス学」が19.3%と続く。

高校生対象 調査結果まとめ

大分大学「理工学部 理工学科」の特色に対する魅力度

■大分大学「理工学部 理工学科」の特色に対する魅力度(※)は、両項目とも8割を超え、数値は以下の通りである。

- ・「A. 課題の確認・同定(理学的アプローチ)と課題解決(工学的アプローチ)の両学問体系から、専門性の高いスペシャリストを養成する。」の魅力度は82.8%である。
- ・「B. 共通基盤としてのデータサイエンス教育を含む基礎教育に加えて、他分野科目の履修、他組織との連携など、分野横断的な教育を実施する。」の魅力度は82.2%である。

■各プログラムの特色に対する魅力度(※)は、いずれの項目でも6割を超え、数値は以下の通りである。

- ・「C. 〈数理科学プログラム〉科学の基盤としての数理的知識・推論能力を身につけ、社会の諸課題の解決に寄与できる人材を養成する。」の魅力度は71.8%である。
- ・「D. 〈知能情報システムプログラム〉情報科学を基礎とし、現代社会の情報化を推進。新たな知的ITシステムのデザイン・構築に貢献できる人材を養成する。」の魅力度は77.9%である。
- ・「E. 〈物理学連携プログラム〉基礎科目から物理の原理・法則を学び、応用科目から未知の課題に対する探究力を養う。科学技術の進展に貢献する人材を養成する。」の魅力度は67.3%である。
- ・「F. 〈電気エネルギー・電子工学プログラム〉数学・物理と電気電子工学を融合的に学び、持続可能な未来社会の構築に寄与できる、創造性と専門性を備えた人材を養成する。」の魅力度は70.5%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

高校生対象 調査結果まとめ

- 「G. 〈機械工学プログラム〉最先端の機械工学の知識を基礎として、脱炭素社会実現のために高効率で環境負荷の低い機器・機械の設計・開発ができる人材を養成する。」の魅力度は74.1%である。
- 「H. 〈知能機械システムプログラム〉機械工学から情報まで広く学び、ロボティクス、サイバネティクスなどのメカトロニクス分野の知見を身につけ、Society5.0の実現を支える人材を養成する。」の魅力度は73.1%である。
- 「I. 〈生命・物質化学プログラム〉基礎化学の知識と物質・材料科学及び生物化学の専門知識・技術を有し、脱炭素・持続可能な社会の構築に貢献できる人材を養成する。」の魅力度は73.6%である。
- 「J. 〈地域環境科学プログラム〉地質・水環境・生態系を含む地域環境や気象状況など、幅広い視点からの環境理解に基づき、持続可能な地域社会の発展に貢献できる人材を養成する。」の魅力度は71.6%である。
- 「K. 〈建築学プログラム〉最先端の建築構造・材料施工・建築環境・設備と建築設計等を学び、安心・安全で環境と調和のとれた建築とまちづくりに貢献できる人材を養成する。」の魅力度は69.9%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

高校生対象 調査結果まとめ

大分大学「理工学部 理工学科」への受験意向・入学意向

- 大分大学「理工学部 理工学科」を「受験したいと思う」と答えた人は、17.8% (4,639名中、**824名**)である。
- 大分大学「理工学部 理工学科」を「受験したいと思う」と答えた824名のうち、大分大学「理工学部 理工学科」に「入学したいと思う」と回答した人は、85.8% (**707名**)である。

高校生対象 調査結果まとめ

大分大学「理工学部 理工学科」への入学意向者数

※ここからは、大分大学「理工学部 理工学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を大分大学「理工学部 理工学科」の入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向は15.2% (**707名**)で、予定している入学定員数355名を上回る入学意向者がみられた。

<属性別>

◇性別

- 「男性」の回答者の入学意向は20.1% (2,678名中、**539名**)と、予定している入学定員数355名を上回る入学意向者がみられた。

◇高校所在地別

- 大分大学の所在地である「大分県」の高校在籍者からの入学意向は18.2% (1,662名中、**302名**)と、一定の入学意向者がみられた。

◇所属クラス別

- 「理系クラス(理系コース)」に所属している回答者の入学意向は15.6% (4,260名中、**665名**)と、予定している入学定員数355名を上回る入学意向者がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- 大分大学を受験・入学する可能性が高い「国公立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は16.7% (4,123名中、**689名**)と、予定している入学定員数355名を上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

◇興味のある学問系統別

- 大分大学「理工学部 理工学科」の学びと関連する「工学」に興味がある回答者の入学意向は29.1% (1,285名中、**374名**)と、予定している入学定員数355名を上回る入学意向者がみられた。

◇大分大学「理工学部 理工学科」の特色に対する魅力度別

- 大分大学「理工学部 理工学科」の特色に魅力を感じている回答者の入学意向は、A・Bいずれの特色でも17%を超えている。採用想定人数の合計もそれぞれ670名以上と、予定している入学定員数355名を上回る入学意向者がみられた。

さらに精緻な条件下での、大分大学「理工学部 理工学科」への入学意向者数

※入学意向者の条件をさらに精緻に設定して、Q1で「国公立大学に進学」と回答し、かつ、Q2で「数学」「物理学」「化学、生物学」「工学」「環境科学、建築学」「情報科学、データサイエンス学」のうち少なくとも1つに興味があると回答した、大分大学「理工学部 理工学科」の入学意向者について分析する。

- 回答者全体における精緻な条件下での入学意向は24.1% (2,602名中、**627名**)で、予定している入学定員数355名を上回る入学意向者がみられた。ターゲットの条件をより精緻に限定しても、予定している入学定員数355名を超える入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ(プログラム別)



高校生対象 調査結果まとめ(プログラム別)

「理工学部 理工学科」(仮称)では、入学後、以下の9つのプログラムに分かれて学ぶことを検討している。その配属人数の目安は以下の通り。

2年次以降 プログラム配属人数の目安

数理科学プログラム(13名)

知能情報システムプログラム(60名)

物理学連携プログラム(10名)

電気エネルギー・電子工学プログラム(65名)

機械工学プログラム(67名)

知能機械システムプログラム(28名)

生命・物質化学プログラム(52名)

地域環境科学プログラム(15名)

建築学プログラム(45名)

以降では、「理工学部 理工学科」(仮称)に「入学したい」と回答した高校生が、学びたいと回答したプログラムについて分析する。

高校生対象 調査結果まとめ(プログラム別)

大分大学「理工学部 理工学科」の、配属先プログラムに対する評価

※ここからは、2年生以降に配属されるプログラムごとの意向について分析を行う。
大分大学「理工学部 理工学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した入学意向者707名に、入学後に学びたいプログラムを聴取したところ、以下の通りであった。

◇数理科学プログラム

- 数理科学プログラムへの希望者は、第1希望＋第2希望で15.1% (第1希望70名＋第2希望37名、合計**107名**)で、配属人数の目安を上回る入学意向者がみられた。

◇知能情報システムプログラム

- 知能情報システムプログラムへの希望者は、第1希望＋第2希望で33.5% (第1希望157名＋第2希望80名、合計**237名**)で、配属人数の目安を上回る入学意向者がみられた。

◇物理学連携プログラム

- 物理学連携プログラムへの希望者は、第1希望＋第2希望で11.7% (第1希望32名＋第2希望51名、合計**83名**)で、配属人数の目安を上回る入学意向者がみられた。

◇電気エネルギー・電子工学プログラム

- 電気エネルギー・電子工学プログラムへの希望者は、第1希望＋第2希望で17.4% (第1希望43名＋第2希望80名、合計**123名**)で、配属人数の目安を上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ(プログラム別)

◇機械工学プログラム

- 機械工学プログラムへの希望者は、第1希望＋第2希望で27.7% (第1希望109名＋第2希望87名、合計196名)で、配属人数の目安を上回る入学意向者がみられた。

◇知能機械システムプログラム

- 知能機械システムプログラムへの希望者は、第1希望＋第2希望で21.4% (第1希望39名＋第2希望112名、合計151名)で、配属人数の目安を上回る入学意向者がみられた。

◇生命・物質化学プログラム

- 生命・物質化学プログラムへの希望者は、第1希望＋第2希望で17.4% (第1希望82名＋第2希望41名、合計123名)で、配属人数の目安を上回る入学意向者がみられた。

◇地域環境科学プログラム

- 地域環境科学プログラムへの希望者は、第1希望＋第2希望で20.1% (第1希望59名＋第2希望83名、合計142名)で、配属人数の目安を上回る入学意向者がみられた。

◇建築学プログラム

- 建築学プログラムへの希望者は、第1希望＋第2希望で23.3% (第1希望113名＋第2希望52名、合計165名)で、配属人数の目安を上回る入学意向者がみられた。

いずれのプログラムにおいても、第1希望＋第2希望での入学意向者数は配属人数の目安を上回っている。

高校生対象 調査結果まとめ(プログラム別)

さらに精緻な条件下での、大分大学「理工学部 理工学科」の、
配属先プログラムに対する評価

※前述の入学意向者の条件をさらに精緻な条件に設定し、
大分大学「理工学部 理工学科」に対して、Q1で「国公立大学に進学」と回答し、かつ、Q2で「数学」「物理学」「化学、生物学」「工学」「環境科学、建築学」「情報科学、データサイエンス学」のうち少なくとも1つに興味があると回答した入学意向者627名について分析する。

◇数理科学プログラム

- 数理科学プログラムへの精緻な条件を満たす希望者は、第1希望＋第2希望で14.8% (第1希望59名＋第2希望34名、合計**93名**)で、配属人数の目安を上回る入学意向者がみられた。

◇知能情報システムプログラム

- 知能情報システムプログラムへの精緻な条件を満たす希望者は、第1希望＋第2希望で34.6% (第1希望147名＋第2希望70名、合計**217名**)で、配属人数の目安を上回る入学意向者がみられた。

◇物理学連携プログラム

- 物理学連携プログラムへの精緻な条件を満たす希望者は、第1希望＋第2希望で12.8% (第1希望29名＋第2希望51名、合計**80名**)で、配属人数の目安を大きく上回る入学意向者がみられた。

◇電気エネルギー・電子工学プログラム

- 電気エネルギー・電子工学プログラムへの精緻な条件を満たす希望者は、第1希望＋第2希望で18.5% (第1希望40名＋第2希望76名、合計**116名**)で、配属人数の目安を上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ(プログラム別)

◇機械工学プログラム(配属人数の目安:67名)

- 機械工学プログラムへの精緻な条件を満たす希望者は、第1希望+第2希望で28.7%(第1希望101名+第2希望79名、合計180名)で、配属人数の目安を上回る入学意向者がみられた。

◇知能機械システムプログラム(配属人数の目安:28名)

- 知能機械システムプログラムへの精緻な条件を満たす希望者は、第1希望+第2希望で22.3%(第1希望35名+第2希望105名、合計140名)で、配属人数の目安を上回る入学意向者がみられた。

◇生命・物質化学プログラム(配属人数の目安:52名)

- 生命・物質化学プログラムへの精緻な条件を満たす希望者は、第1希望+第2希望で14.7%(第1希望63名+第2希望29名、合計92名)で、配属人数の目安を上回る入学意向者がみられた。

◇地域環境科学プログラム(配属人数の目安:15名)

- 地域環境科学プログラムへの精緻な条件を満たす希望者は、第1希望+第2希望で18.0%(第1希望48名+第2希望65名、合計113名)で、配属人数の目安を大きく上回る入学意向者がみられた。

◇建築学プログラム(配属人数の目安:45名)

- 建築学プログラムへの精緻な条件を満たす希望者は、第1希望+第2希望で23.8%(第1希望102名+第2希望47名、合計149名)で、配属人数の目安を上回る入学意向者がみられた。

ターゲットの条件をより精緻に限定して大分大学「理工学部 理工学科」の学びと関連する学問に興味を持つ国公立大学進学希望者に絞っても、各プログラムに対する第1希望+第2希望の入学意向者の数は、各配属人数の目安を上回っている。

高校生対象 調査結果まとめ(プログラム別)

◇大分大学各プログラムの特色に対する魅力度別

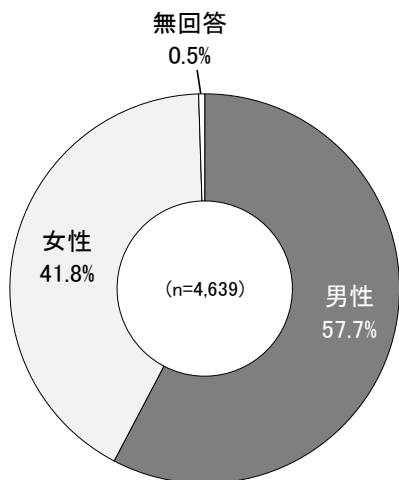
- 大分大学「理工学部 理工学科」の各プログラムの特色に魅力を感じている入学意向者の各プログラムへの希望(に対する希望度)は、いずれの特色でも第1希望＋第2希望で13%を超えており、入学意向者の数は各配属人数の目安を上回っている。

高校生対象 調査結果

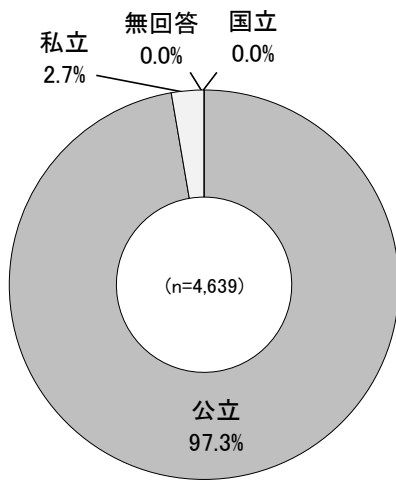


回答者の属性(性別/高校種別/高校所在地/所属クラス)

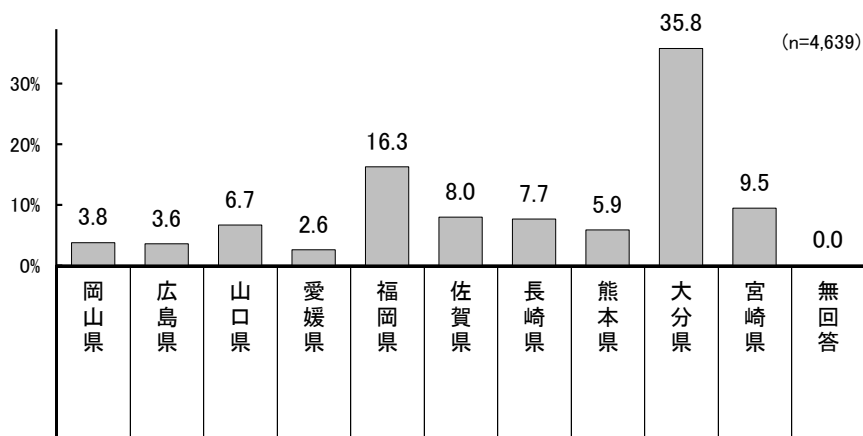
■性別



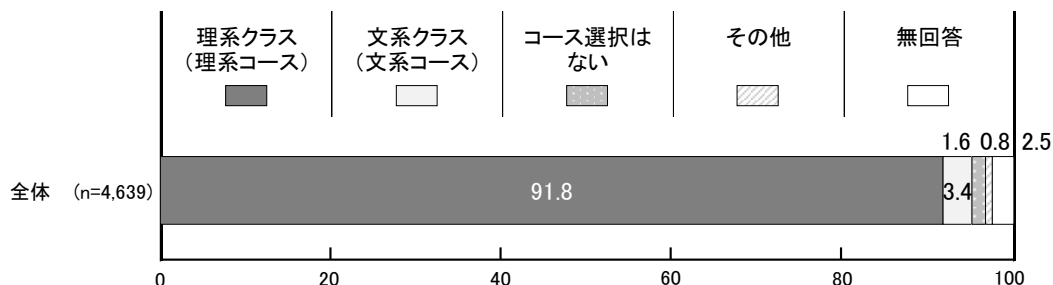
■高校種別



■高校所在地



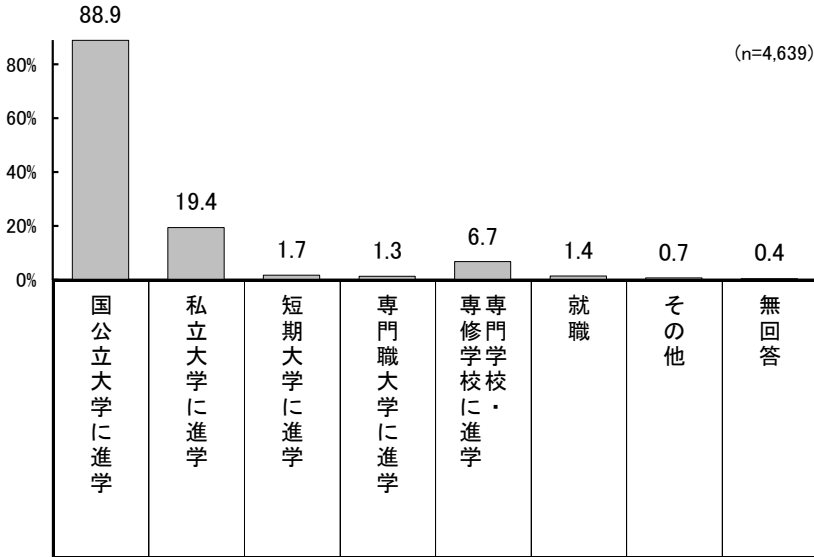
■所属クラス



高校卒業後の希望進路／興味のある学問系統

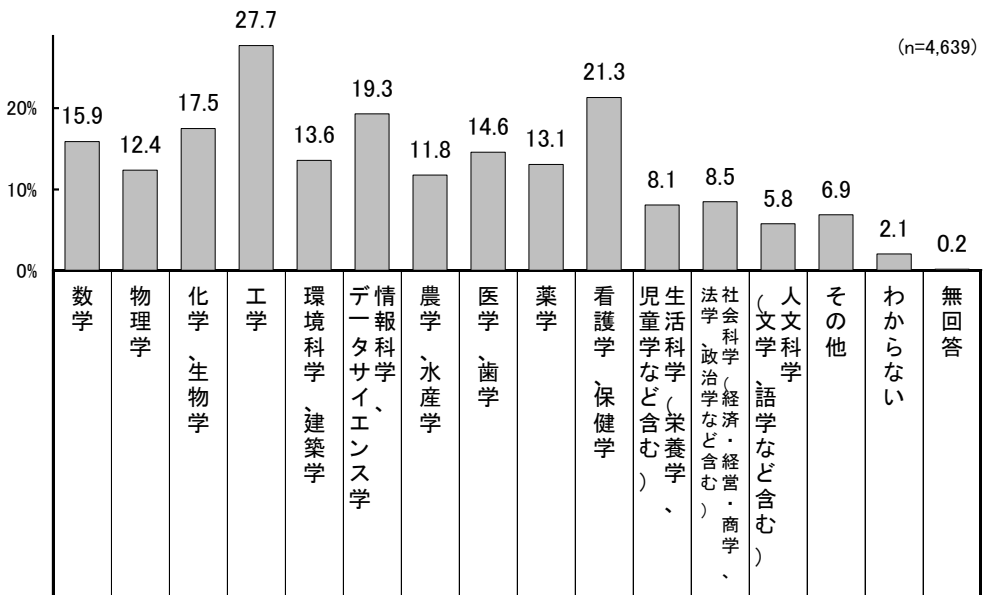
■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。以下の項目のうち、現在検討している(希望している)進路すべてに○をつけてください。(いくつでも)



■興味のある学問系統

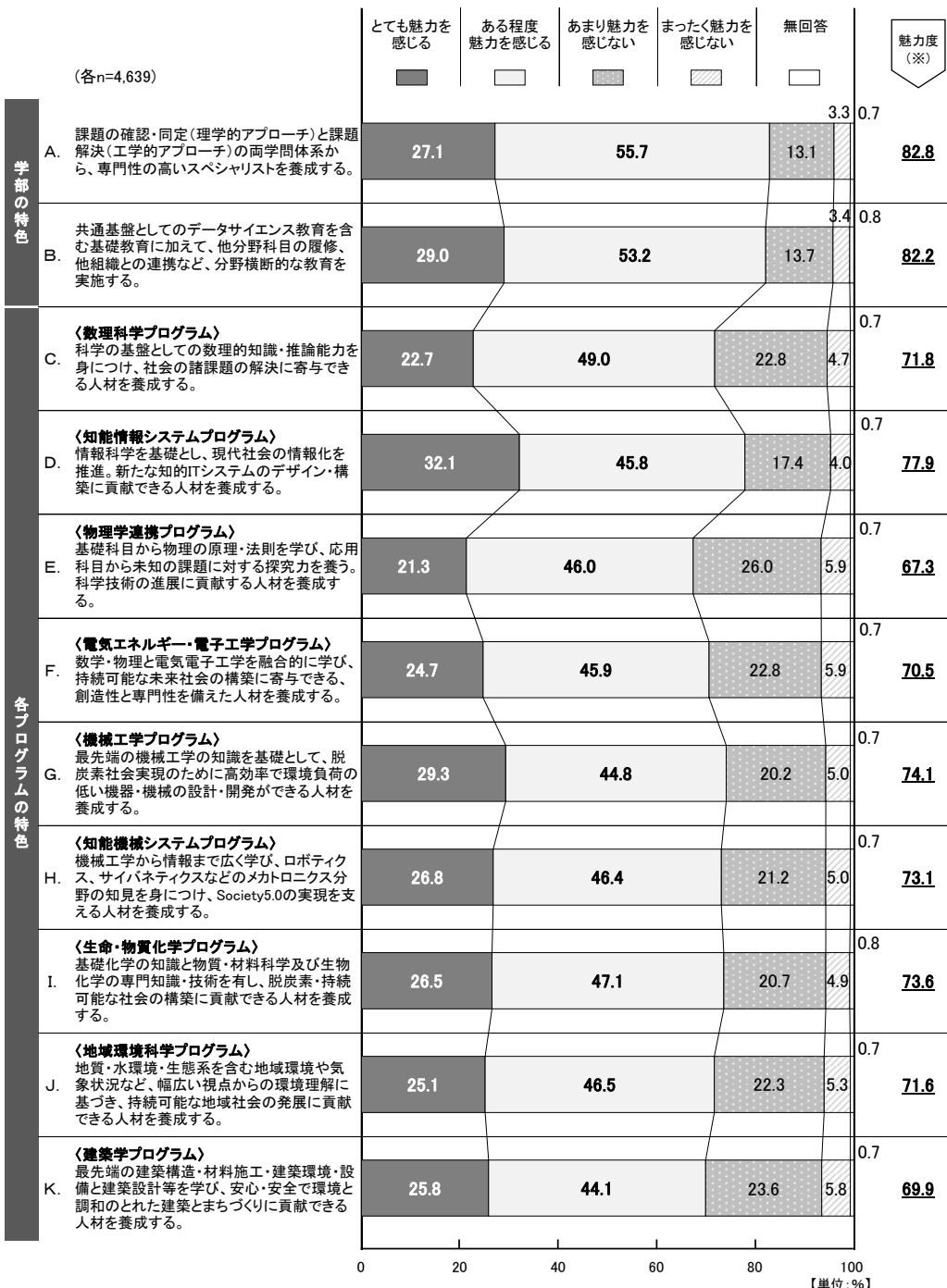
Q2. あなたは、どのような学問に興味がありますか。以下の項目から、興味のある学問系統の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)



大分大学「理工学部 理工学科」の特色に対する魅力度

■大分大学「理工学部 理工学科」の特色に対する魅力度

Q3. 大分大学「理工学部 理工学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



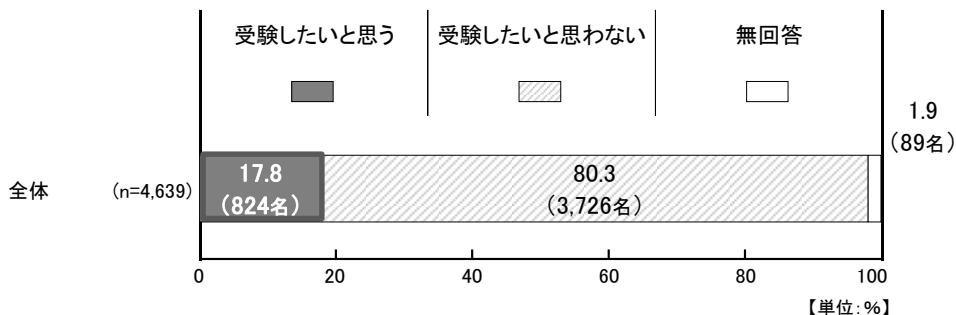
※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに％を算出し、小数点第二位を四捨五入し、学生確保(資料)・29

大分大学「理工学部 理工学科」への受験意向／ 入学意向／受験意向別入学意向

■大分大学「理工学部 理工学科」への受験意向

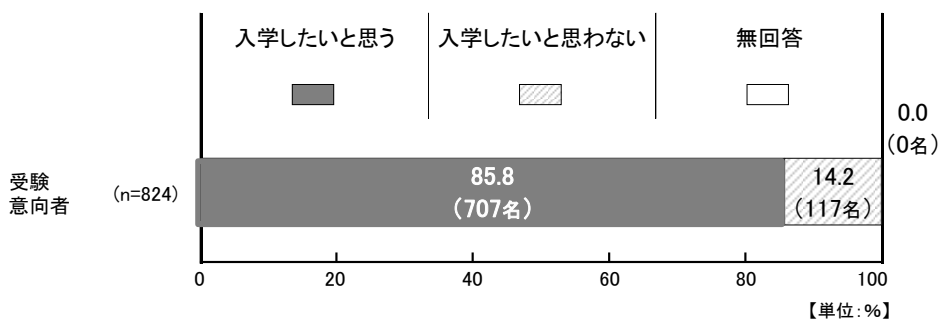
Q4. あなたは、大分大学「理工学部 理工学科」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験したいと思う」と答えた824名のみ抽出

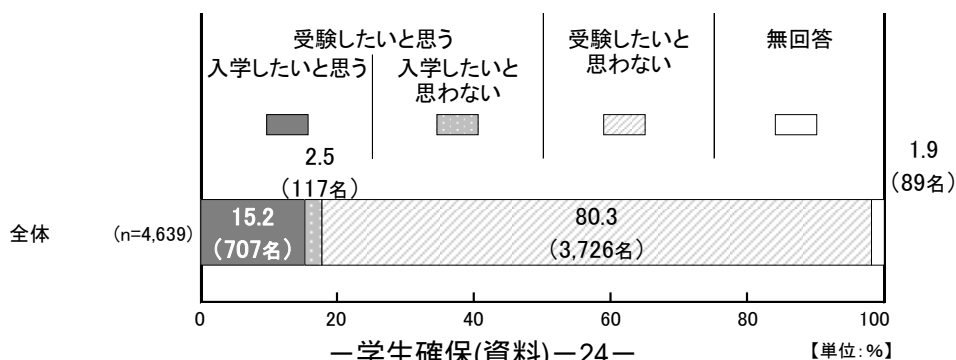
■大分大学「理工学部 理工学科」への入学意向

Q5. あなたは、大分大学「理工学部 理工学科」(仮称、設置構想中)に合格したら、入学したいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験意向(Q4)」と「入学意向(Q5)」を
かけあわせて集計(母数は全回答者)

■大分大学「理工学部 理工学科」への受験意向別入学意向



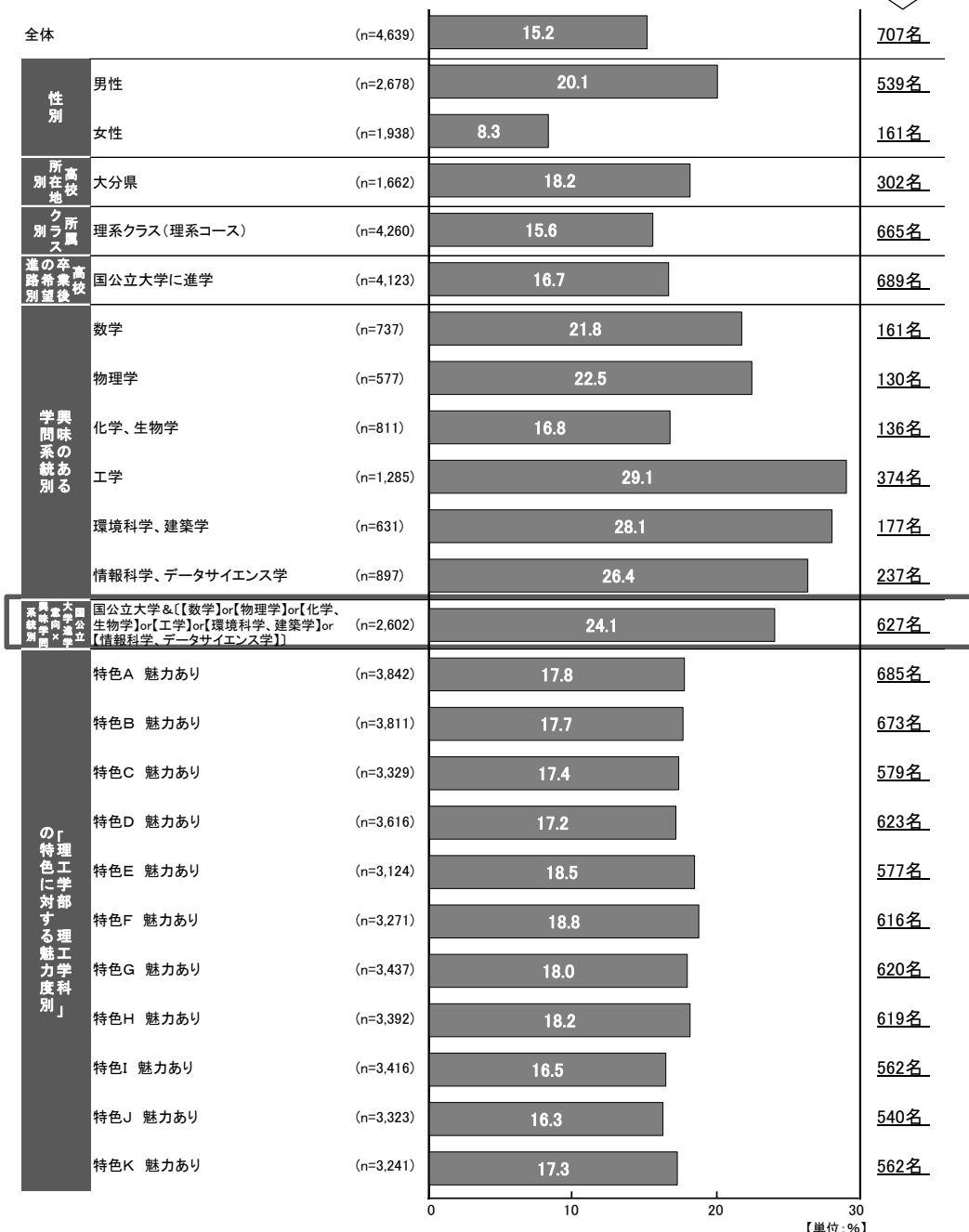
大分大学「理工学部 理工学科」への受験意向別 入学意向<属性別>

■大分大学「理工学部 理工学科」への受験意向別入学意向<属性別>

※大分大学「理工学部 理工学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を大分大学「理工学部 理工学科」の入学意向者と定義する。

<属性別>

入学
意向者数
(※)



【単位：%】

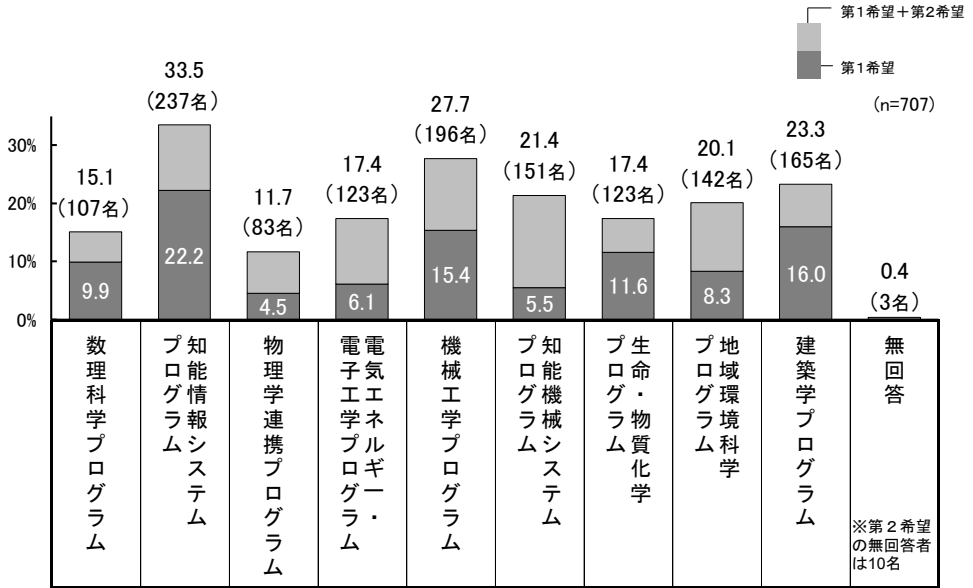
一学生確保(資料) 25

大分大学「理工学部 理工学科」の学びたいプログラム

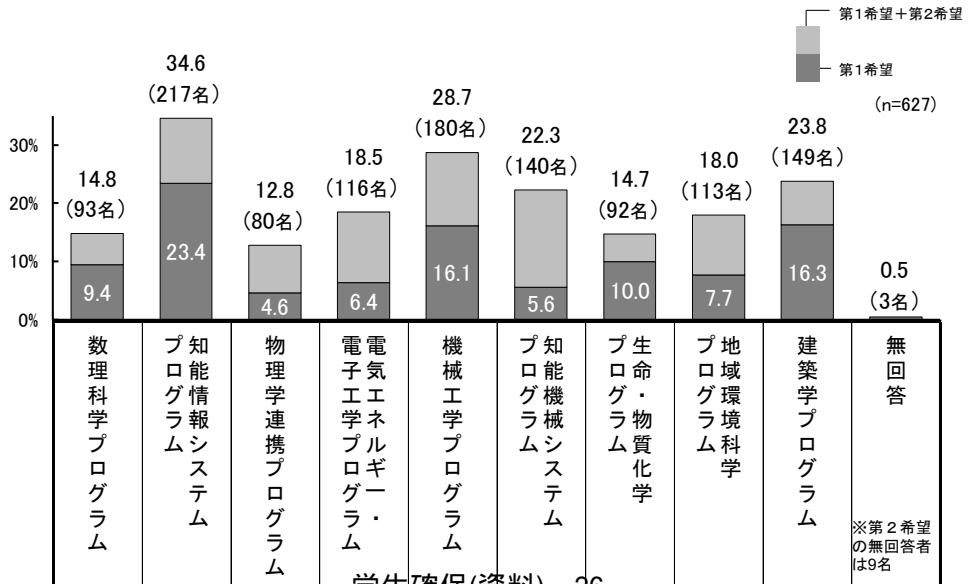
■大分大学「理工学部 理工学科」の学びたいプログラム

Q6. Q5で「入学したいと思う」と回答した方にお聞きます。入学後、以下の9つのプログラムに分かれて学ぶことを検討しています(1年次仮配属、2年次本配属)。あなたが大分大学「理工学部 理工学科」(仮称、設置構想中)を受験・合格した場合、どのプログラムで学びたいと思いますか。第1希望と第2希望のプログラムを、それぞれ教えてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

※大分大学「理工学部 理工学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人ベース



※Q1で「国立大学に進学」と回答し、かつ、Q2で「数学」「物理学」「化学、生物学」「工学」「環境科学、建築学」「情報科学、データサイエンス学」のうち少なくとも1つに興味があると回答し、かつ、大分大学「理工学部 理工学科」に対してQ4で「受験したいと思う」と回答、Q5で「入学したいと思う」と回答した人ベース

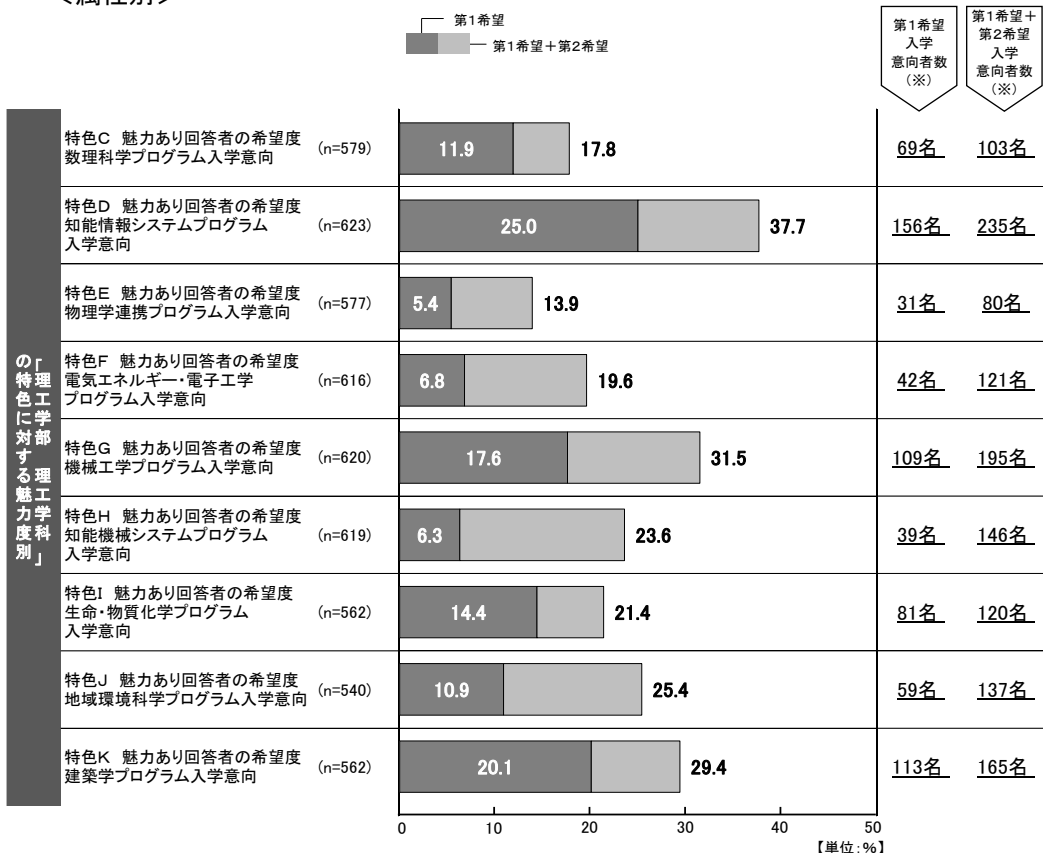


大分大学「理工学部 理工学科」の学びたいプログラム 受験意向別入学意向<属性別>

■大分大学「理工学部 理工学科」の学びたいプログラム 受験意向別入学意向<属性別>

※大分大学「理工学部 理工学科」に対して、
Q4で「受験したいと思う」、Q5で「入学したいと思う」、Q6の学びたいプログラムで第1希望を回答した人を大分大学「理工学部 理工学科」の第1希望入学意向者と定義する。また、Q4で「受験したいと思う」、Q5で「入学したいと思う」、Q6の学びたいプログラムで第1希望または第2希望を回答した人の合計人数を大分大学「理工学部 理工学科」の第1希望+第2希望入学意向者と定義する。

<属性別>



※第1希望入学意向者数=「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」かつ学びたいプログラムで第1希望を回答した人の人数

※第1希望+第2希望入学意向者数=「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」かつ学びたいプログラムで第1希望または第2希望を回答した人の合計人数

卷末資料 調查票



大分大学 理工学部 理工学科(仮称、設置構想中) に関するアンケート

大分大学の理工学部は、現在「創生工学科」と「共創理工学科」の2学科で運営しています。
2023年(令和5年)4月より、「理工学科」1学科体制への改組を構想しています。

【現在】

理工学部 創生工学科(入学定員235名)
共創理工学科(入学定員150名)



【2023年4月以降】

理工学部 理工学科(入学定員355名)

このアンケートは、高校生のみ皆さんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、大分大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。

つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ このアンケートや同封した資料に記載されている事項は、すべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

記入要領

1. 回答は、**あてはまる番号に「○」印をつけてください。**
2. この用紙は、電算処理しますので汚さないようにしてください。
3. 記入は、必ず**鉛筆又はシャープペンシル**で濃く書いてください。
4. 下記の【良い記入例】にしたがって記入してください。
特に、「○」印は、**番号丸枠からはみ出さないよう**につけてください。

ここに○印をつけてください

ID 10

この欄には記入しないでください

○ 数学

良い記入例

数学

物理学

悪い記入例

数学

物理学

数学

物理学

数学

物理学

数学

物理学

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

性別 (1つに○)	<input type="radio"/> 男性	<input type="radio"/> 女性	学年 (1つに○)	<input type="radio"/> 1年生	<input type="radio"/> 2年生	<input type="radio"/> 3年生
在籍している 高校名	高校所在地 [] 都・道・府・県					
	<input type="radio"/> 国立 <input type="radio"/> 公立 <input type="radio"/> 私立 (←1つに○) [] 高等学校					
所属クラス (1つに○)	<input type="radio"/> 理系クラス (理系コース)		<input type="radio"/> コース選択はない			
	<input type="radio"/> 文系クラス (文系コース)		<input type="radio"/> その他			

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

Q1

あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。

以下の項目のうち、現在検討している(希望している)進路すべてに○をつけてください。(いくつでも)

- | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|------------------------------------|
| <input type="radio"/> 国公立大学に進学 | <input type="radio"/> 短期大学に進学 | <input type="radio"/> 専門学校・専修学校に進学 |
| <input type="radio"/> 私立大学に進学 | <input type="radio"/> 専門職大学に進学 | <input type="radio"/> 就職 |
| | | <input type="radio"/> その他 |

Q2

あなたは、どのような学問に興味がありますか。

以下の項目から、興味のある学問系統の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)

- | | | |
|--------------------------------|--------------------------------------|---|
| <input type="radio"/> 数学 | <input type="radio"/> 情報科学、データサイエンス学 | <input type="radio"/> 生活科学(栄養学、児童学など含む) |
| <input type="radio"/> 物理学 | <input type="radio"/> 農学、水産学 | <input type="radio"/> 社会科学(経済・経営・商学、法学、政治学など含む) |
| <input type="radio"/> 化学、生物学 | <input type="radio"/> 医学、歯学 | <input type="radio"/> 人文科学(文学、語学など含む) |
| <input type="radio"/> 工学 | <input type="radio"/> 薬学 | <input type="radio"/> その他 |
| <input type="radio"/> 環境科学、建築学 | <input type="radio"/> 看護学、保健学 | <input type="radio"/> わからない |

